

2014年3月期の業績

業績概要

2014年3月期決算 増収増益

ガス販売量 **1.6%増**

ガス販売量は、会計上自家使用に変更した数量を足し戻すと、実質的な販売量は工業用を中心に、2億5千9百万m³、1.6%増加した162億4千5百万m³(足し戻さない会計上の販売量は147億3千5百万m³)。

売上高 **10.3%増**

売上高は、単価増に伴う都市ガス売上高の増、LNG販売の売上の増加により、1,965億円、10.3%増加した2兆1,121億円。

当期純利益 **6.7%増**

当期純利益は、スライドタイムラグ(P.7参照)の改善による都市ガス営業利益の増加に加え、好調な電力事業、器具・工事等により、68億円、6.7%増加した1,084億円。

2014年3月期の株主還元

配当額251億円(1株当たり配当額は引き続き10円)、自社株取得400億円とし、これらが連結当期純利益に占める総分配性向は60.0%となり、引き続き**総分配性向6割を達成**。

主な事業別営業利益の分析

都市ガス

原料費調整によるスライドタイムラグが288億円改善したほか、年金数理差異償却の改善により諸給与が28億円減少したこと等により、113億円、8.0%増加し1,526億円となりました。

電力事業

販売量は当社グループが運営する発電所の定期点検の影響により若干減少したものの、販売単価の上昇等により、53億円、27.7%増加し244億円となりました。

海外事業

2013年3月期に計上されたメキシコのバヒオプロジェクト劣後融資金の利息等が減少した一方で、オーストラリアのプルートプロジェクトが本格稼働し増益となったこと等により、4億円、17.8%増加し28億円となりました。

器具・工事

2014年4月に消費税が5%から8%に増税されたことを受け、増税前の駆け込み需要による新築住宅建設の増加やエネファーム、TES温水システムの販売増加等により、32億円、72.7%増加し76億円となりました。

営業外損益

2013年3月期に計上された供給区域外の特定の需要家に対する本支管建設収益が減少したこと、米ドル会計を採用するTGオーストラリアにて保有する豪ドルが為替安により評価損となったこと等により、82億円減少し、▲64億円となりました。

業績サマリー 3月31日に終了した1年間

	2014	2013	増減	%
ガス販売量(百万m ³ 、45MJ/m ³)	14,735	15,390	▲655	▲4.3
売上高	21,121	19,156	+1,965	+10.3
営業費用	19,460	17,700	+1,760	+9.9
営業利益	1,660	1,456	+204	+14.0
経常利益	1,596	1,474	+122	+8.2
当期純利益	1,084	1,016	+68	+6.7

経済フレーム 3月31日に終了した1年間

	原油価格 (\$/bbl)	為替レート (¥/\$)	平均気温 (°C)
2014	109.99	100.17	17.0
2013	113.88	82.91	16.6

年金運用(個別) 3月31日に終了した1年間

	運用利回り (コスト控除後)	割引率	期末資産 (億円)
2014	1.61%	1.5%	2,730
2013	6.10%	1.4%	2,760
2012	5.13%	1.7%	2,540